

ユダヤ教の人間観—マイノリティに関するテキストのデータベース化と
現代社会への提言

かつまた なおや
勝又 直也

(京都大学・大学院人間・環境学研究科・准教授)

【研究の概要等】

本研究は、ユダヤ教におけるマイノリティの問題に関連するあらゆる原典資料（ヘブライ語、アラム語、ユダヤ・アラビア語、イディッシュ語など）を時代、地域、ジャンルを問わず収集、精読、分析し、日本語と英語に翻訳したうえでデータベース化し、広く社会に向けて公開することを目的とする。具体的な研究方法としては、ユダヤ教は、浄穢観、聖俗観、貴賤観などに基づいた律法という形で、いかにユダヤ共同体内部にさまざまな種類のマイノリティを作り出し、彼らを区別／差別してきたのか（差別する側としてのユダヤ）というテーマに関して、あらゆる種類のテキストを網羅的にデータベース化し、原典の言語／日本語／英語の3言語で検索可能にする。さらに、このようなユダヤ教内部における区別／差別の構造を、ディアスポラにおけるユダヤ人が、自らがマイノリティとして、マジョリティによって区別／差別されてきた構造（差別される側としてのユダヤ）と比較する。最終的には、マイノリティ観の根底にあるユダヤ教の人間観の本質を理解することを目的とする。

【当該研究から期待される成果】

本研究により、国内外を問わずこれまで本格的な研究がされてこなかったユダヤ教におけるマイノリティというテーマに関して、総合的な理解が得られる。また、本研究により明らかにされるユダヤ教のマイノリティ観を、他の宗教や文化におけるマイノリティ観と比較することにより、マイノリティ問題や差別構造のより普遍的なモデルの構築も可能になるであろう。それをもとにして考察することにより、現代社会におけるマイノリティ問題に対する理解もまた深まり、その解決への手がかりが得られることも期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Naoya KATSUMATA, *The Liturgical Poetry of Nehemiah Ben Shelomoh Ben Heiman HaNasi: A Critical Edition*, Leiden, Boston and Köln: Brill Academic Publishers and Styx Publications, 2002
- ・ Naoya KATSUMATA, *Hebrew Style in the Liturgical Poetry of Shmuel HaShlishi*, Leiden and Boston: Brill Academic Publishers and Styx Publications, 2003

【研究期間】 平成20年度－24年度

【研究期間の配分（予定）額】

81,400,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】 http://www.h.kyoto-u.ac.jp/staff/221_katsumata_n_0_j.html